

1 単元 みんなで作ろう「写真日記」

2 目標

人を大切にする伝え方で情報を発信することができる

3 情報の交流を行う場面と期待される効果

子どもたちが毎日交代で「写真日記」を作成する。それを廊下に掲示、公開し、付箋を使って自由に感想を書き込めるようにする。「写真日記」の事例について感想を付箋に書いて出し合い、話し合うことで情報の交流を行う。これにより、人を大切にする伝え方について、新たな気づきを得たり、考えを深めたりすることができる。

4 実践の様子

「写真日記」の開始（4月～）

日直が授業時間や休み時間に写真を撮り、自分で印刷し、プリントに貼ってコメントを付けてまとめるという「写真日記」の活動を開始した。【資料①】撮影と印刷を自分たちでできるように、デジタルカメラと液晶画面付きプリンタを教室に常備した。廊下に掲示、公開することで、子どもたちは写真を、伝えるための一つの手段として使うことを覚えた。

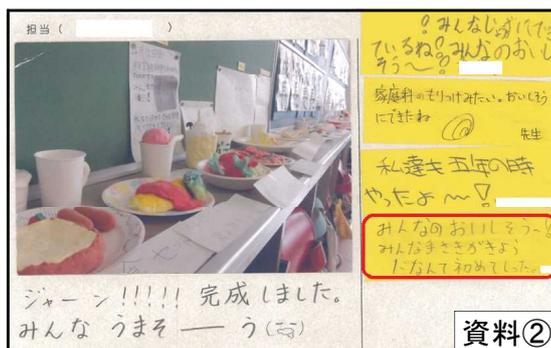


「写真日記」の発展（6月～）

廊下を通る他学年の子の反響も得られるようになり、外部に情報発信をしている意識をもっていった6月、付箋でコメントを付け合う様式に変更した。【資料②】教室の前の廊下を通る、4年生や6年生の子もコメントを付けるようになった。

外部に情報

粘土の作品が完成したという話題に対して、「みんな手先が器用だなんて初めて知った」とコメントを付けた子がいた。「もう一度読んでみて」と声を掛けると、はっとした顔をして付箋を取り、一部消しゴムで消して「みんな手先が器用」と修正し、貼り直した。



付箋でのコメントには「つい、うっかり」問題のある伝え方をしてしまうことがよくあったが、後で自分の言葉を客観的に見るので、人を大切にした伝え方を考えるよいきっかけになった。

事例を基に考える授業（7月）

教師が用意した写真日記の事例について、問題点や考えを付箋に書いて情報交流シートに貼っていく方法で意見を出し合わせ、話し合わせる授業を行った。写真日記は自分たちが普段行っている活動なので、事例をより身近に受け止めることができた。

F児は他の子の付箋を読み、前半は使わなかった「かわいそう」という表現を後半では使い、鳥の心情を想像するようになった。【資料③】このように、子どもたちは、互いに付箋を読み合い、話し合うことで、新たな気づきを得たり、考えを深めたりしていった。

5 成果と課題

- 付箋に書いて感想を出し合い、話し合ったことで、人を大切にする伝え方について、新たな気づきを得たり、考えを深めたりすることができた。
- 事例が3つあり、扱う内容が盛りだくさんで時間が1時間では足りなくなかった。事例を絞り、2回に分けて行うと良い。

